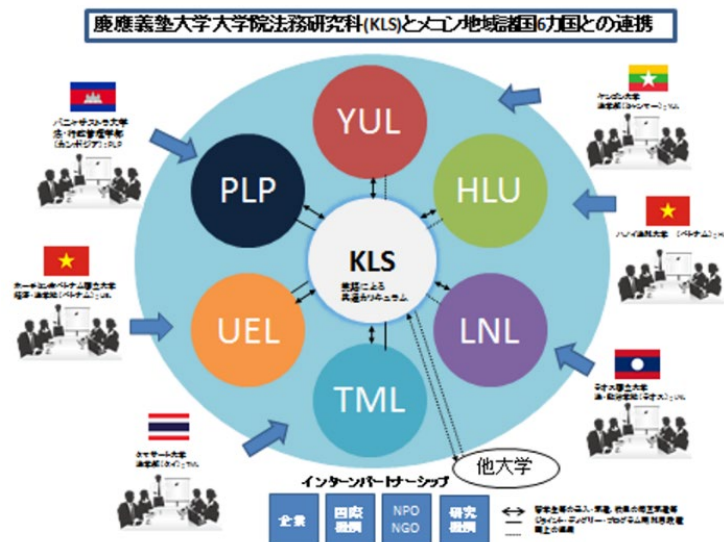


# 大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 慶應義塾大学 取組概要

## 【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN)

LL.M.を用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム(PAGLEP)の形成

**【事業の概要】** 本プログラムは、メコン地域諸国(ベトナム、カンボジア、ラオス、タイ、ミャンマー)を中心に、日本も巻き込んで成長するアジア市場において、新たに生じている法的課題に対し、グローバルな視野から課題の解決と共通利益の増進に向けてリーダーシップをとることのできる人材を養成することを目的とする。本プログラムは、慶應義塾大学大学院法務研究科(KLSという)とメコン地域諸国の6大学(相手大学という)との連携による各大学の歴史的・地理的・文化的特色等を活かした固有の課題解決のためのジョイント・プログラムである。それは、①KLSのJ.D.プログラムの英語科目およびグローバル法務専攻法務修士課程(LL.M. in Global Legal Practice)の英語科目を中核とする全科目英語を用いた教育プログラム、②相手大学におけるグローバル法務人材の養成に資する英語科目を活用し、かつ③日本および相手大学の国における政府機関・国際機関・法律事務所・企業・NPO/NGOと連携したインターン等を実施するものである。



**【交流プログラムの概要】** メコン地域諸国(ベトナム、カンボジア、ラオス、タイ、ミャンマー)を中心に日本も巻き込んで成長するアジア市場において、新たに生じている法的課題に対し、グローバルな視野から課題の解決と共通利益の増進に向けてリーダーシップをとることのできる人材を養成する。

日本とメコン地域諸国大学(6カ国7大学)間の協働による各大学の歴史的・地理的・文化的特色等を活かした固有の課題解決のためのジョイント・プログラム①既存のJ.D.プログラムおよびグローバル法務専攻法務修士課程(LL.M. in Global Legal Practice)の英語科目を中核とする全科目英語を用いた教育プログラム②政府機関・国際機関・法律事務所・企業・NPO/NGOと連携したインターン等の実施する。

**【本事業で養成する人材像】** メコン地域諸国では市場の拡大に伴い、日本との関係が緊密化する一方で、投資紛争、経済・地域格差、貧困、公害・環境破壊、汚職、法令遵守・司法アクセスの不徹底、国際標準の要求等の固有の開発課題に直面している。本事業は《偏狭なナショナリズムに陥ることなく、グローバルな視点から、アジア市場で生じている問題を解決し、人類の共通利益を増進すべく、政府・企業・市民社会の各界でリーダーシップを発揮できる人材》としてのグローバル法務人材の養成を目標にする。そのためには、①自国の法制度について英語で発信する能力を備え、持続可能な開発目標(2015年9月国連総会)に則ったグローバルな視点から、②ビジネス法務(企業・政府・消費者の取引、知的財産、金融、競争、会社運営、倒産、国際取引、仲裁等の法的処理)および③セキュリティ法務(人権・環境・安全・災害・犯罪・貧困問題への法的対応)に関する知識を学修し、かつ④実務トレーニング(政府機関・国際機関・法律事務所・企業・NGO等でのインターンシップを含む)を修得する必要がある。それを通じ、市場取引や人権問題の法的紛争解決に寄与するグローバル法曹、および政府・企業・NGO等で活躍するグローバル法務専門職を養成する。

**【本事業の特徴】** メコン地域6カ国7大学で連携し、新たな法的課題に対応するためにリーダーシップを発揮できるグローバル法務人材の養成を目指したジョイント・プログラム「アジア発グローバル法務人材育成プログラム」(PAGLEP)を実施する。

## <タイプB>【交流予定人数】

	H28	H29	H30	H31	H32
学生の派遣	6	15	15	21	21
学生の受入	1	21	21	42	42

# 1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN)

LL.M.を用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム(PAGLEP)の形成

## ■ 交流プログラムの実施状況



〈2017年3月に実施したエクスターンシップでの授業風景(カンボジア)〉

### 【授業内容】

賃貸借契約と売買を題材にした共通課題を用いて、それぞれの国の法律を適用した場合、どのような解決になるのか相互にプレゼンテーションを行った。  
問題に対するアプローチの方法や法の解釈適用方法、解決策の共通点・相違点についてディスカッションをした。

## 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

2017年3月6日～2017年3月19日 海外研修(ベトナム・カンボジア)エクスターンを実施した。

### ○ 外国人留学生の受入

2017年2月21日よりハノイ法科大学(ベトナム)より1名留学生を受け入れた。

〈タイプB〉

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	6	12
学生の受入	1	1

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

法科大学院である法務専攻(KLS-J.D.)における質保証のモデルを応用している。具体的にはGPA制度などによる「厳格な成績管理」、および、授業評価を中心とする「徹底したFD活動」である。

このシステムをLL.M.であるグローバル法務専攻にも導入しつつ、コンソーシアムのパートナー校との間でも共有化を図っている。そのためにパートナー校の教学委員会との連携を強化している。

さらに法務研究科では、PAGLEPの実施機関として慶應義塾大学大学院法務研究科グローバル法研究所(Keio Institute for Global Law and Development: KEIGLAD)を設立し、大学間の交流に必要な情報収集や研究を行っている。



〈2017年3月に実施したエクスターンシップでの学生発表の様子(ベトナム・ホーチミン)〉

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生に対しては、各種奨学金の紹介や寮や住宅の紹介、生活状況の提供、TAによるサポート体制などを整え、日本での学業に専念できる環境の整備に努めている。

日本人学生の派遣に向けて、現地受入校と緊密に連携を取り、大学の情報や受入国の基礎情報の提供、奨学金の紹介等を行っている。留学先での学業に専念できる環境の整備に努めている。

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

慶應義塾大学において世界展開力強化事業を実施する機関としてKEIGLADを立ち上げ、随時情報をホームページ上(<http://keiglad.keio.ac.jp/en/>)に公開している。PAGLEPの研究成果を年1回出版し、発表する計画である。

## ■ グッドプラクティス等

教育の質向上に向け、2017年3月4日にメコン地域6カ国7大学と共に、比較法学教育研究をテーマにシンポジウムを開催した。研究成果を年1回、出版する計画である。

現在、日本およびメコン地域が直面する法的課題に対応できる人材育成に向け、2017年3月に実施した海外研修(ベトナム・カンボジア)では、日本人学生も含め、参加者全員にプレゼンテーションの機会を設けて相互に議論する機会を設け、非常に有益であった。また、現地日系法律事務所や経済開発地区へのフィールドワーク、カンボジアJICA法整備支援オフィスにも訪問した。

留学生向けには、実務的観点から法的課題を検討できるよう、法律事務所へのエクスターンシップを実施した。これらの取組を継続して実施し、より実践的な観点から法的課題に対応できる人材育成を目指している。

## 2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

LL.M.を用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム(PAGLEP)の形成

### ■ 交流プログラムの実施状況



〈 2017年8月留学生向け短期サマースクールの様子(東京) 〉

#### 【授業内容】

事前に提示された共通事例について、参加大学の学生が各国の法制度を紹介するとともに、共通事例に各国の法を適用した場合、法的紛争がどのように解決されるのかプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションや質疑応答を通じて、比較法学的な観点から、自国の法制度の成立過程や背景事情に目を向ける機会になるとともに自国の法解釈について再認識する機会となった。

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生の派遣

2017年8月(ラオス)に2名、9月(タイ)に6名、2018年3月(カンボジア・ベトナム)に6名を海外研修エクスターンに派遣した。

#### ○ 外国人留学生の受入

〈タイプB〉

2017年4月LL.M.正規生1名(タイ)、8月に留学生向けに、ベトナム・カンボジア・ラオス・ミャンマーから14名の学生向けに短期サマースクールを開催した。9月にLL.M.正規生2名(ベトナム)、留学生2名(ベトナム)を受入れた。

	H29	
	計画	実績
学生の派遣(外国人含)	15	14
学生の受入	21	19

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

タイのタマサート大学、ベトナムのハノイ法科大学とホーチミン経済法科大学、ラオス国立大学、カンボジアのパニャサストラ大学、ミャンマーのヤンゴン大学をパートナー大学として、学生の派遣と受入、教職員の相互交流、法学教育の比較研究などを実施した。



〈 2018年3月ベトナム地方裁判所見学 〉

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生に対しては、各種奨学金の紹介や寮や住宅の紹介、チューターによる相談窓口を設け学業に専念できる環境の整備に努めている。

日本人学生の派遣に向けて、現地受入校と緊密に連携を取り、大学の情報や受入国の基礎情報の提供、奨学金の紹介等を行っている。留学先での学業に専念できる環境の整備に努めている。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

PAGLEPの研究成果をまとめた図書(第1巻“Comparative Legal Education from Asian Perspective”;第2巻“Challenge for Study Law Abroad”)を出版し、国内の法科大学院、法学関連の関係者、ならびにASEAN諸国の協定校に贈呈。また、ホームページ(<http://keiglad.keio.ac.jp>)上で公開している。PAGLEPの普及促進ビデオを製作し、ホームページ(<http://keiglad.keio.ac.jp>)上で公開している。

### ■ グッドプラクティス等

年2回の学生の海外派遣やサマースクール開催による学生の受入のほか、2017年9月30日にメコン地域5カ国6大学と共に、法律を学ぶ留学生たちが直面する障壁(Challenges to Study Law Abroad)をテーマにワークショップを開催した。

各国の教員によるプレゼンテーションを通し、意見交換を行った。

また、2018年1月には、タイ、ベトナム、ラオス、カンボジアから各大学の民法担当教員を招聘し、各大学の教育内容を理解し、共通素材の作成に向けての合意形成を図った。

同月にはタイおよび国内他大学の教員を招聘し、アジア諸国の比較憲法についての意見交換を行った。これらの取組を継続して実施し、実践的な観点から法的課題に対応できる人材育成を目指している。

### 3. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

#### 【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN)

LL.M.を用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム(PAGLEP)の形成

#### ■ 交流プログラムの実施状況



エクスターンシップでの講義風景(2019年2月・ラオス)

#### 【授業内容】

メコン地域各国の法制度に関する授業の英語による受講および事前課題について、参加大学の学生との間で相互に各国法を適用した場合における紛争解決のあり方について、英語によるプレゼンテーションおよびディスカッションをした。

メコン地域諸国における法実務の最前線に触れるために、法律事務所訪問や法整備支援プロジェクトのオブザーブ、開発エリアでのフィールドスタディーなどを実施している。生きた学問としての法律学に触れることは、相手国の法制度成り立ちや背景事情に目を向ける機会となっている。また、自国の法制度を相対化して見る事が可能となり、比較法学的な観点からもよりを学修する機会を提供している。

#### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

##### ○ 日本人学生の派遣

- ・2018年8月、ベトナムへ11名、2019年2月にラオスへ5名、計16名を派遣した。
- ・初の試みとして、司法試験から司法研修所に入所するまでのギャップターム(6~9月)を利用して、カンボジア、タイ、ベトナム(ハノイ・ホーチミン)に4名の学生を各国へ派遣し、1~3ヶ月のエクスターンシップに参加した。

##### ○ 外国人留学生の受入

ハノイ法科大学(ベトナム)、ホーチミン経済・法大学(ベトナム)、パニヤサストラ大学(カンボジア)、タマサート大学(タイ)より中長期の留学生を受け入れた(4月・9月)。加えて、8月には、ハノイにおいてサマースクールを開催し、ラオス国立大学(ラオス)およびヤンゴン大学(ミャンマー)を含む全提携大学から学生を受入れ、各国の法制度に関するの比較やプレゼンテーションの実施、学生交流を行った。

<タイプB>

	H30	
	計画	実績
学生の派遣	15	20
学生の受入	21	45

#### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

協定校との関係を強化するため、ベトナムのハノイ法科大学にて2018年12月に、慶應義塾大学大学院法務研究科グローバル法研究所オフィス(KEIGLAD Research Office at Hanoi Law University)を開設。

メコン地域諸国大学およびASEAN諸国大学との連携拠点として、大学間の教職員の協同体制の構築や、学生間の交流の場として活用する。



KEIGLADオフィス開設(2018年12月・ハノイ(ベトナム))

#### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生に向けて、英語対応が可能な職員やチューターによる相談窓口の設置、英語による法律科目やインターン制度の拡充に努めている。

日本人学生の派遣に向けて、中長期の留学のニーズにこたえるため協定先の大学と協同プログラムを設置し、単位互換が可能なプログラムを策定している。

#### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- ・広報誌“KEIGLAD NEWS”を創刊、年2回の発行サイクルでPAGLEPの活動内容を紹介している。
- ・研究成果をまとめた図書(第3巻“How Civil Law Is Taught in Asian Universities as the Volume III of PAGLEP Series”)を出版およびホームページ上で公開している。
- ・本プログラム独自のホームページ(<http://keiglad.keio.ac.jp>)を設け、更新している。

#### ■ グッドプラクティス等

・ギャップタームプログラムにおける、法律事務所やJICA法整備支援プロジェクトオフィスでのインターンシップ、現地進出企業でのインタビューなどの機会を通じ、より深い視座に基づいた研究が可能となった。研究成果はリサーチペーパーとして執筆され、うち2本は英語によるものである。

・2018年11月、PAGLEP参加大学の教員らで、比較法学教育研究をテーマとしたワークショップを開催した。本ワークショップの内容は“How Civil Law Is Taught in Asian Universities as the Volume III of PAGLEP Series”にまとめた。

・持続的な事業を見据え、「アジアにおける法学教育連携推進資金」を設け、募金活動を開始している。

## 4. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【事業の名称】 (選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

LL.M.を用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム(PAGLEP)の形成

### ■ 交流プログラムの実施状況 【プログラム内容】



〈PAGLEP連携大学からのワークショップ参加学生と日本人学生(2019年12月・東京)〉

・短期派遣・受入(海外エクスターンシッププログラム・特別プログラム)

各国法の授業を履修すると共に、英語による自国法のプレゼンテーションおよび共通事例について各国法を適用した場合の事案の解決について発表・ディスカッション、各国司法組織へのフィールドワーク等を行った(9月・2月)。

PAGLEP参加大学から留学生を受入れ、ワークショップ「メコン地域諸国の未来とSDGs Goal 16」を開催した(12月)。

・中長期派遣(ギャップタームプログラム)

受入大学の授業を履修すると共に、自身の関心に基づき、調査研究を行った(7月~9月)。研究成果は慶應義塾大学学術情報ディポジトリ(KOARA)に公表し、一部研究は英語により執筆された。

・学術研究 ハノイ法科大学と共同で民事訴訟法に関するワークショッププログラムを開催した(10月)。PAGLEP連携大学と共に、憲法共通教材作成に関するワークショップを開催した(11月)。

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生の派遣

ギャップタームプログラム：カンボジアおよびベトナムへ1名ずつ学生を派遣した(7月から9月)。

海外エクスターンシッププログラム：ベトナムへ11名(9月)、ミャンマーへ8名(2月)の学生を派遣した。

#### ○ 外国人留学生の受入

単位取得型受入：カンボジア、ラオスより留学生を1名ずつ受け入れた(9月から2月)。

特別プログラム：PAGLEP連携大学より、25名の学生を受け入れた(9月)留学生向けワークショッププログラムには、連携大学より、12名の学生が参加し、シンポジウムにて発表を行った(12月)。

海外エクスターンシッププログラム(ミャンマー)には、ヤンゴン大学から、8名の学生が参加した(2月)。

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成に向けた取組

ヤンゴン大学(ミャンマー)との間で大学間交流協定を締結した。

ハノイ法科大学(ベトナム)および経済法大学(ベトナム)との間で、ダブルディグリー協定を締結した(5月および12月)。令和2年度9月より、ハノイ法科大学より、ダブルディグリー協定に基づき、留学生を1名受け入れる予定である。

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生に対して、各種奨学金の紹介や寮や住宅の紹介、チューターによる相談窓口を設け、学業に専念できる環境整備に努めている。

日本人学生に対して、現地受入校との間で緊密な連携を取り、大学情報のみならず、受入国の基礎情報の提供、奨学金の紹介、安全な住居の紹介等を行い、留学先での学業に専念できる環境の整備に努めている。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

・憲法共通教材に関する研究成果を、PAGLEP Series第4巻*How Constitutional Law Is Taught in Asian Universities?*(Keio University Press,2020)として出版し、国内法科大学院、法曹関係者、PAGLEP連携大学等に配布するとともに、本事業ホームページ(<http://keiglad.keio.ac.jp>)上にて公開している。

・外部に向けた本事業の実施状況の紹介として、年2回ニューズレターKEIGLAD NEWSを発行・配布するとともに、本事業ホームページ上で公開している。

### ■ グッドプラクティス等

PAGLEP参加大学から留学生12名を受入れワークショップ「メコン地域諸国の未来とSDGs Goal 16」を開催した(12月)。参加者らは、シンポジウム「アジアのための国際協力in法分野2019」にて、発表を行い、その内容はICCLC NEWS69号(国際民商事法センター刊)に掲載された。

ハノイ法科大学内に開設した慶應グローバル法研究所ハノイオフィスを活用し、ワークショップ「民事紛争解決手続に関する特別研究会ー日本の経験からー」を開催し、現地教員との間で、ベトナムに於ける調停の運用やADRに関する立法について、活発な意見交換を行った(10月)。

<タイプB>

	R1	
	計画	実績
学生の派遣	21	21
学生の受入	42	47



〈海外エクスターンシッププログラム(ミャンマー)の参加学生達(2020年2月・ヤンゴン)〉

## 5. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプBASEAN)

LL.M.を用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム(PAGLEP)の形成

### ■ 交流プログラムの実施状況



〈オンライン・エクスターンシップの様子(2020年9月)〉

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、オンラインを通じた国際交流が中心となった。

9月にはメコン地域諸国の連携大学と共同で、地域横断的なエクスターンシップを開催し、11月には本事業の取りまとめのシンポジウムをオンラインで開催した。

また、例年は6月から9月頭にかけて実施していた「ギャップタームプログラム」は、10月から1月に時期をずらし、オンラインによる調査研究活動を行った。その結果、時間や場所にとらわれない新たな国際交流スタイルを見出すことができた。

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生の派遣

- オンライン・エクスターンシップ(9月):メコン地域諸国連携大学と共同で「日本とメコン地域諸国における法の支配の進展」をテーマに開催。24名の学生が参加した。
- ギャップターム(10月～1月):アジアの法制度を深く学びたい学生に研究留学の機会を提供した。1名が現地教員から研究指導をオンラインで受け、ベトナムの土地法に関するリサーチペーパーを執筆した。

#### ○ 外国人留学生の受入

- オンライン・エクスターンシップ(9月)。18名の学生(ベトナム・タイ・ラオス・ミャンマー・カンボジア)が参加し、メコン地域諸国の連携大学教員による講義や現地法律事務所等へ訪問した。
- 1名の交換留学生(ミャンマー)を受け入れるとともに、1名の正規生(ベトナム)が入学した(4月)。9月には、3名の正規生(ベトナム1名およびラオス2名)が入学した。入国緩和措置に伴い2名の学生(ラオス)が来日した。

<タイプB>

	R2	
	計画	実績
学生の派遣	21	25
学生の受入	42	23

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ハノイ法科大学(ベトナム)とのデュアル・ディグリー協定に基づき、最初の学生を受け入れた(9月)
- タマサート大学との間でデュアル・ディグリー協定を締結(2021年3月)



〈ラオスからのLL.M. 正規生(2020年12月)〉

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

コロナ禍においても、日本人学生の実渡航および留学生の受入をあきらめるのではなく、直前まで実施に向けて方法を模索した。ほとんどのプログラムが、オンライン開催となったが、エクスターンシップでは、オンラインの特性を活かし、各連携大学教員による講義の受講、現地司法機関へのインタビューといった日本とメコン地域を横断するダイナミックなプログラムを実施した。オンラインによる研究指導体制を充実化させ、交換留学生、正規生ともに対面プログラムと遜色ないプログラムを提供した。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- 本事業の5年間の成果のまとめとして、KEIGLAD (ed.), *Promoting the Rule of Law in Asian Dynamics*, Keio University Press (Feb. 2021)を出版すると共に、本事業ホームページ(<http://keiglad.keio.ac.jp/>)にて公開している。
- 2020年度の取り組みをまとめたニューズレター「KEIGLAD NEWS」5号(6月)および6号(3月)を発行し、本事業ホームページにて公開している。

### ■ グッドプラクティス等

- 2020年11月、『「法の支配ユビキタス世界」の実現に向けた大学の役割』をオンラインで開催した。本シンポジウムには、国内外よりのべ150人以上が参加し、法の支配の進展に大学はどう関わることができるか、多様な観点から活発な議論が展開された。